

ANNUAL REPORT

2023

活動報告書



代表理事よりごあいさつ

日頃よりご支援ご協力いただいている皆様には大変お世話になっております。NPO法人ターサ・エデュケーションの市村です。

2023年度は不登校やひとり親家庭等、私たちの支援対象である児童のべ2,557名に居場所や学習機会の提供を図ることができました。

特に2022年度に新しく開校したフリースクールこらんだむ太田校については、昨年度と比較し支援児童数は10倍以上となりました。

また2023年度より、フリースクールの放課後の空き時間を活用した無料学習支援をスタートし、フリースクールを卒業した児童がボランティアに参加するなど、相互支援の場づくりにも取り組みました。

そして組織としての支援体制の仕組みを確立していくために、バックオフィスを支える職員を1名雇用し、情報発信の管理、決済システムの導入、HPの改修、支援マニュアルの作成、支援者管理システムの構築等々に取り組んでまいりました。

こうした新しい取り組みに挑戦できるのも、寄付やボランティアをとおして私たちの活動を支えてくれる皆様のお陰です。

これからも一人でも多くの子どもたちが笑顔になり、巣立っていくための支援に粘り強く取り組んでいきますので、今後とも活動へのご理解と変わらぬご支援をお願いいたします。



NPO 法人ターサ・エデュケーション

代表理事 市村ただみつ

群馬県前橋市で生まれ、母子家庭で育つ。山梨大学教育学部卒業後、高崎市役所子ども家庭課で児童福祉業務に従事し、母子家庭を取り巻く課題に危機感を抱き、2015年NPO法人ターサ・エデュケーションを設立。群馬県内でひとり親家庭や不登校の子どもたちへ居場所と学習機会を提供する活動を展開。

ANNUAL REPORT

2023
index

- 01・02 ごあいさつ・index
- 03・04 私たちが取り組む課題
- 05・06 ぐんまの不登校の今までとこれから
- 07・08 「特集」踊り場のある人生を歩む
- 09・10 SAME BOAT
- 11・12 こらんだむ
- 13・14 その他事業活動
- 15・16 ご支援のお礼・仲間募集
- 17・18 フォトギャラリー・会計報告



ISSUE

子どもが**孤立**することで、
意欲格差・自己効力感喪失してしまうこと

子どもの貧困率

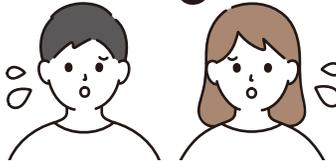
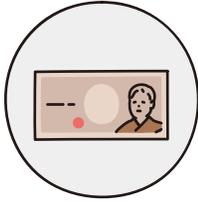
11.5%

世帯年収に伴う
体験格差 **3倍**

子どもの**貧困**

世帯年収に伴う
学力格差

20%の開き



不登校

つながりが無い

38.2%

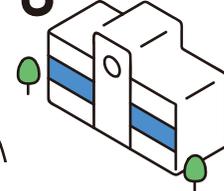
学校外の機関(フリースクール等)を利用して
出席認定を受けた

10.9%

不登校
児童・生徒数

30万人

前年度から
22.1%増加



社会的養護

4.6万人

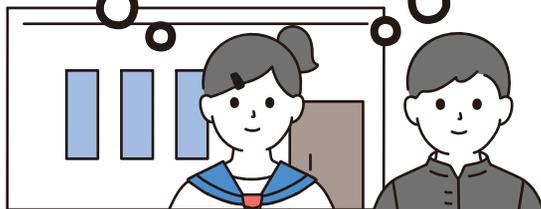
大学進学率

2.9%

社会的**養護**

里親委託率

22.8%



VISION

すべての子どもたちが 未来にときめく社会に

すべての子どもが自分の可能性を信じ、
未来の自分に期待できる社会をつくること



子どもの支援は未来への投資の考えのもと、
行政や企業、個人や団体問わず、
子どもを中心に置いた支援の輪が生まれ、
子ども一人ひとりが自分に自信を持ち、
自分の身の丈にあった人生選択を
行い、健やかに育つことができる
仕組みをつくる。そして、その先の未来では
受益者が担い手になり、将来にわたって
支援の輪が持続する好循環社会を目指します。



MISSION

子どもの可能性を みんなでフェアにする

みんなで、社会で、子どもそれぞれに必要な支援環境を整備する

01 まずは、直接支援

課題のある目の前の子どもたちに居場所や学習機会を提供し、子どもたちの自己肯定感や意欲、能力を育む

02 求む、支援の共犯者

情報発信や講演活動を通じて、課題の理解者や共感者を募り、支援の担い手を増やす。

03 みんなで協育

関係人口を増加させ、支援品質を高めるとともに支援範囲を広げ、より多くの当事者へ支援を届ける

04 未来のために。社会全体で子どもを育てる。

社会全体で子どもの支援に取り組む仕組みをつくり、どんな環境や状態においても、すべての子どもたちが未来にときめき、生きやすくなる社会へ

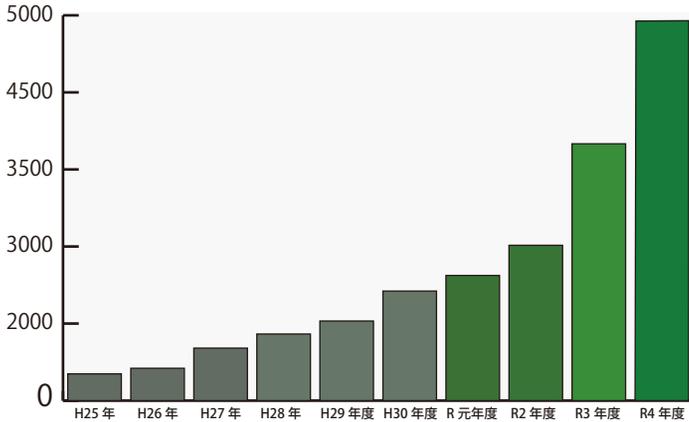
不登校の今までとこれから

子どもを真ん中に置いた支援に向けて



ぐんまの不登校のいま

群馬県の不登校の現状と推移についてお知らせいたします。



令和4年度小中学校における不登校児童生徒数は4382人（前年より+601人）、不登校児童生徒数の割合は3.13%（前年より+0.49%）、うち小学校では1.65%（前年度1.38%）中学校では5.85%（前年度4.98%）となっており、不登校児童生徒数は小学校で10年連続増加、中学校で9年連続増加となっています。少子化が進行する中不登校児童生徒が増え続けている状況は、大きな社会課題として危惧されています。

ぐんまの不登校の支援

群馬県の不登校支援の現状についてご紹介します。

群馬県全体として、学校内外でさまざまな支援に取り組んでいますが、支援が行き届いていない子どもたちが多く存在しています。理由としては、「学校に戻す」「不登校を防ぐ」という、そもそものゴール設定が不登校の子どもたちのニーズに合致していないことが考えられます。

学校内の支援

スクール
カウンセラー
等に支援を受けた。

1,413人



養護教諭等
による専門的
な指導を受けた。

602人



学校外の支援

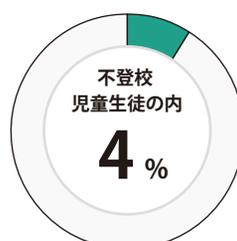
教育支援
センター
で支援を受けた。

410人



民間団体
民間施設
で支援を受けた。

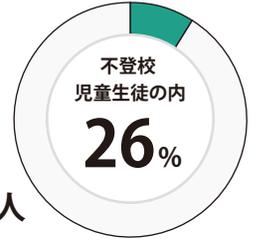
154人



支援のその先

指導の結果
登校できる
ようになった。

1,175人



学校外の
支援機関で
出席認定
を受けた。

419人



※その他、病院・診療所で支援を受けた児童・生徒は、437人

※データ上では「指導要録上出席扱い」となったと表記

特色のある不登校支援

学校に戻すという視点だけでない、
さまざまな支援を行っています。

「誰ひとり取り残さない」想いの元、「学校に行かなくても育つ」へ支援の方向転換が重要になってきていることから、フリースクールや教育支援教室の支援が行政や教育委員会で始まっています。

群馬県のとりのくみ

ぐんま MANABIBA ネットワーク構築事業

令和4年度より、群馬県教育委員会が中心となり、市町村教委、学校、教育支援センター、フリースクール等のネットワークを構築し、不登校等、学びのための支援が必要な児童生徒への支援の充実と連携を実施。

ワンステップ相談窓口 「つなぐん」

乳幼児から高校生までの子ども、保護者、学校、教職員等のためのワンストップ相談窓口を令和6年度に開設予定。いつでもどこでもどのような方法でもつながる相談窓口を通して、様々な悩みを抱える子どもや保護者等を適切な支援につなげ、「すべての子どもたちに一人一人の学び場を」提供する。取り組みのひとつとして、不登校児童生徒のオンラインの学び支援を実施

前橋市のとりのくみ

オープンドアサポーター 一配置の取り組み

不登校生徒に対して家庭訪問を実施し、生徒や保護者に適切な働きかけを行う。また、中学校卒業後に進学も就労もしていない生徒に対して、社会とのつながりを継続させるアウトリーチ型支援を実施。

教育支援教室等利用者 支援事業補助金の交付

教育支援教室等利用者支援事業補助金は、不登校支援施設を利用している児童生徒の保護者の負担軽減を図ることを目的に、通所に係る交通費の一部を補助する制度。補助対象者は、前橋市教育支援教室及び市が認めたフリースクールに通所している要保護・準要保護世帯の児童生徒の保護者。

伊勢崎市のとりのくみ

市内の全小中学校に 「Pルーム」を配置

不登校児童・生徒の学校内の居場所として、「Pルーム」と名付けた新たな支援スペースを設置。従来の相談室やカウンセリングルームなどを「温かみ」や「特別感」のあるスペースに仕立て、くつろげる空間や仕切りや座席の配慮によって個別の学習環境を整備。

太田市のとりのくみ

フリースクール等民間 施設事業費補助金交付

太田市に在住し、小・中学校、特別支援学校等に在籍する不登校児童生徒が利用する太田市内のフリースクール等民間施設の学習活動等の充実を図るため、民間施設設置者である事業者に対して、当該経費の一部に対し補助金を交付。

Point!

headline

- ① 子どもの数が減っているにも関わらず、毎年不登校の子どもは増えている。
- ② 不登校はもともと社会課題であり、行政や教育委員会も主に学校機能の拡充という面（スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの配置等）さまざまな取り組みを実施してきた。ただ、あくまで「学校に戻す」「不登校を防ぐ」という観点であった。
- ③ しかしながら、不登校は増え続けており、学校内で解決することは難しくなってきた。
- ④ 今後は教育支援センターやフリースクール等の学校外の支援機関とも連携し、「学校に戻す」という考え方から「学校に行かなくても育つ」へ支援の方向転換が重要になってきている。
- ⑤ こうした背景を受け、フリースクールや教育支援教室の支援が行政や教育委員会でスタートされ始めている。

「踊り場のある人生を歩む」

不登校やひきこもりと向き合ってきた2人からお話をお伺いしました。



聞き手

NPO 法人
ターサ・エデュケーション

市村 均光



話し手

不登校と向き合う親の会
さくらんぼの実る頃 代表

湯浅 やよい 氏



NPO 法人 DNA 代表理事

沼田 翔二郎 氏



theme.1 当時の思いや 心境について

地元の北海道の高校卒業式翌日、一番仲が良いと思っていた友人から心に傷つく一言を言われ、それをきっかけに今まで自分が大切にしてきた人間関係、今までの人生、すべてむなしくなっていました。

大学進学を機に、人生リセットする気持ちで群馬にやってきましたが、ネガティブな気持ちを切り替えられず人間関係に怯え、周りの視線に怯え、大学にも行けず、そこから1年間の引きこもりが始まりました。頑張りたい気持ちと、体がそこについていけないという状態でした。当時は、手帳に誰かに聞いてほしかった悩みや気持ちを綴ることで、どうにか心の内を吐き出しながら踏ん張っていました。



息子が中学1年の夏休み明けから不登校になり、「どうしよう。どうにか学校に行かせないと、でも何をどうしたらいいのか。」という焦りと不安な気持ちでいっぱいでした。あれこれ試行錯誤しましたが全てうまくいかず、夫も仕事に忙しく頼りにならず、私がどうにかしないと、とそれだけでした。

気分転換にと思って行った旅先で、私がやらせたいことと子どもの思いが違ったことがきっかけで子どもの怒りが爆発してしまい、悩んでいる息子に私がさらに追い打ちをかけて傷つけていたのだと思いました。



CLIP Point

皆さんも聞いていて心当たりがあると思いますが、やはりなかなか大変な日々だったと思います。親は親、子は子でそれぞれ大変なんですよ

theme.2 ほしかった支援 やサポートは？

病院にかかった時に、なかなか子どもの事情を理解されず冷たく対応されたことがあり、病院にかかるのに苦労しました。どこの病院でも、事情のある子どもでも受け入れてくれる環境があったらよかったです。学校のスクールカウンセラーとの相性がとても良かったのは幸運でした。学校側の立場に寄りやかなスクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーも実際多い中、絶対的な信頼を置く先生と出会えたのは大きなサポートになっていました。



上の兄、姉と年の離れた末っ子の僕は小さいころから喘息持ち、また父親の単身赴任などもあり、母は、自分がこの子を守らなきゃという思いが強かったのかな。良かれと思って母親が僕のことをすべてやってしまうので、自立するサポート、自分のことは自分で決めていいんだよというサポートが欲しかったなって思います。一人暮らしを始めてからが大変でした。

良かったことは、群馬には知り合いが一人もいなかったこと。

昔の僕を知ってる人がいないので、比べたりジャッジされることがない環境だったのは、ありがたかった。それと、ネット掲示板などで自分と同じ境遇の人のブログや体験談を読んで、同じ境遇の人がいるんだなって思えたことは安心感につながりました。



CLIP Point

なるほど。今のお二人の話から色々なキーワードが聞けた気がしますね。自分で決める、ジャッジされない環境、自分だけじゃないって思える、SAME BOAT の主旨にもつながる大事なことだと思います。

theme.3 あの時の自分に 声をかけるなら

当時は長い長いトンネルに入って出口が見えない感覚でした。目先の悩みばかり気を取られていて、息子がこの先長い人生を歩むことをすっかり忘れていました。色々な策を試したけれど本人が学校に行きたがらない以上どうにもならないと分かった時、ならばこの瞬間を楽しんじゃおう！と吹っ切れて。それからは、日中一緒にテレビを見たり運動して汗を流したりして過ごすうちに、私の表情も変わっていたようです。

ある日息子が「僕、高校に行きたいな」と言ってきました。

だからあの時の自分に声をかけるとしたら、「そんなに長いことこの苦しみは続かなかつたよ、終わったらいい思い出になったよ。焦って色々させないで、ちょっと待ってあげたらいいよ。」と声をかけたいですね。



自分を見てくれている人、気にかけてくれている人って世の中に必ずいるんだよってことは、伝えたいなと思います。それがたとえ、直接自分に対しての行動に表れていなかったとしても。陰で一生懸命自分のことを気にかけて、心配してくれている人の存在は大きいと思います。僕が地元に戻った時、親の友人が僕を飲み連れてってくれたんですね。おそらく親が気にかけてほしいって頼んだからだと思いますが、その人からの、明るくて強い「大丈夫だよ！」言葉は自分の背中を押してくれましたね。



CLIP Point

共通してることって、子どもと楽しく時間を過ごしたり、大丈夫だよの声かけだったり。親や大人ってすぐ目的や狙いを持つじゃないですか、でもそういうことより、純粹に一緒にいる、寄り添うことがキーになるのかなって、思います。

不登校ワークショップ事業

SAME BOAT

～不登校親子のつながりを支援する～



SAME BOAT とは？

学校に行きづらさを抱えている子どもとその保護者を対象に、当事者同士がゆっくりとつながる機会を提供するイベントです。2016年から計10回、延べ300組以上の群馬県内の親子にご参加頂いています。



参加対象の方

不登校など、学校に行きづらさを抱えている20歳以下の方及び保護者

どんな人が参加した？

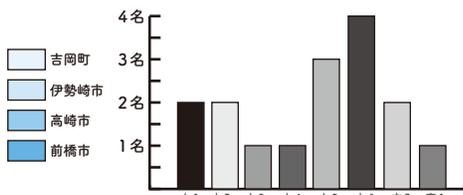
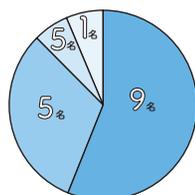
18組

親子

39名

7名

一般



プログラムの特徴

point

1

同じ状況の当事者同士と過ごせる子ども・保護者、それぞれが同じバックグラウンドの当事者と時間を過ごすことで安心感が生まれます。

point

2

一人ひとりに丁寧に寄り添う子どもたちとは、一人ひとりにボランティアが寄り添い時間を過ごします。今の気持ち、どう過ごしたいのか？に丁寧に伴走します。

point

3

自然豊かな森で様々な体験を普段は踏み入れることの無い森で、様々な体験をすることで、落ち着いた気持ちを育てていきます。

当日のようす



◆◆◆ 子どもプログラム ◆◆◆

大人 2 名子ども 2 名のグループを作り野外散策を実施しました。散策コースにはなぞなぞや宝探しなどの体験ブース、ピンポン玉運びなどを用意し、子ども一人ひとりが楽しく笑顔で参加している様子がありました。



◆◆◆ 親・一般プログラム ◆◆◆

NPO 法人全国不登校新聞社 代表理事 石井志昂氏様をお招きし、「不登校の子どもが一步を踏み出すサイン」というテーマで講演をして頂きました。質問会や交流会では保護者の方々からたくさんのご意見・ご質問を頂きました。

参加者の感想

仲間が
出来た

80%

参加して
楽しかった

100%

参加して
満足した

100%

子どもの感想

仲良くなれるか
心配だったけど
一緒に遊んだりして
仲良くなれた。

いっしょに
たんけんできてとても
楽しかったです。また、
いっしょにはなしたりたん
けんしたりしたいです。
ありがとうございました。

やさしくお話しして
くれたり声をかけてく
れてありがとうございました。
楽しかったです。
また会いたいです。

とちゅうで
にもつをもって
くれてありがとう
ございました。
楽しかったです。

子どもを
信じて、
子どもの行きたい
道を進ませて
あげたいです。

保護者の感想

頭では理解していても
「本当にそれで良いのか？」
と思う日々でしたが、“やっぱり
それで良い”と改めて感じる
ことがたくさんあった。

子供が行く前は不安や
緊張がみられたが、
戻ってきた時の表情が
元気で嬉しそうにしている
満足感がみられました。

フリースクール運営事業

こらんだむ

~親子の新たな選択肢を支援する~



こらんだむとは？

ありのままの子どもを受け止めて、それぞれが自立に繋がる場を目指し、平成 26 年に前橋市表町に開所しました。学校に行きづらさを感じる子どもたちが安心・安全に過ごせる「居場所」であり、日々様々な活動を通し、学ぶ「学び場」です。



通所対象の方

学校に行きづらさを感じている小中高生 (20 歳程度) までの子ども。
また、人との繋がりや居場所を必要としている子どもも対象となります。

フリースクールとして大切にしていること

フリースクールこらんだむは、3 ステップを踏んで、不登校の子どもたちと向き合っています。

1 人 1 人に寄り添う伴走支援を前提とした安心安全な居場所をつくり、ICT 環境を活かした学習支援や大学・企業・団体と連携したプログラムを実施し、子どもの自己肯定感を育むとともに社会的自立に繋がるプログラムを提供しています。



こらんだむの1日



みんな集まれ！

「おはよう」スタッフと元気な挨拶を交わし、1日がスタート！

10:00



それぞれランチ

「いただきます！」楽しいランチタイムに会話も弾みます。

12:00

13:00

17:00



フリータイム

子どもたちが自分で活動を決めて自由に過ごします。



13:00

プログラムタイム

子どものニーズに合わせ、多彩な内容で実施しています。子どもが主体的に進められるようスタッフもサポートします。

前橋校 Maebashi

Place: 前橋市表町2丁目3-6 前橋第一ビル4階

株式会社コシダカ様にご提供いただき、サークル活動を始めました。子ども達が楽しみにしているカラオケの時間は、コミュニケーションが盛んになり、親睦を深める大切な時間です。



サークル活動

こんな事に取り組んでいます！

日常に溢れる子どもの「なぜ？なんで？」に寄り添い、科学の力でその謎を解き明かしていきます。実際に見て触れて感じて考えて…子どもの気づきで学びがさらに深まります。



科学実験教室

太田校 Ota

Place: 太田市高林東町1302 南ふれあいセンター内

スターバックス太田小舞木店様に受け入れを頂き、「地域との繋がり感謝」をテーマに就業体験を実施しました。普段とは異なる環境で新しい自分が発見できたり、経験が自信に繋がります。



就業体験

こんな事に取り組んでいます！

子どもたちが作ってみたい！と思っているものを中心に調理体験教室を実施しています。家庭や一人では大変で挑戦しづらいものでも、みんなで協力すると楽しくおいしい料理が完成します。



調理体験教室

その他事業

私たちが取り組む事業を紹介



ハンズ ひとり親家庭児童への居場所型学習支援

一般財団法人群馬県母子寡婦福祉協議会より運営委託を受け、群馬県内のひとり親家庭児童を対象とした無料学習支援教室（ハンズ）を運営しています。本年度は 16 名の小中学生がハンズに参加をし、約 20 名のボランティアスタッフとともに 18 回の学習支援教室を開催することができました。クリスマス会などのレクリエーションなども開催し、子どもたち同士が繋がりを感じ安心できる環境で学習の定着を図りました。



活動の様子



多くの子どもたちがこの場に集います



定期的に交流会も実施
クリスマス会の様子



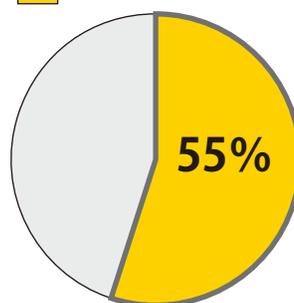
児童、一人ひとりに寄り添うサポート

子どもたちの変化

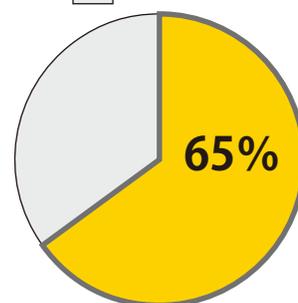
- ・ 学習だけでなく友達と楽しい時間を過ごせた。
- ・ 物事に集中できるようになった。
- ・ 宿題などを確認して学習習慣をつけることができるようになった。

■ 以前よりも出来るようになった

□ 変わらない

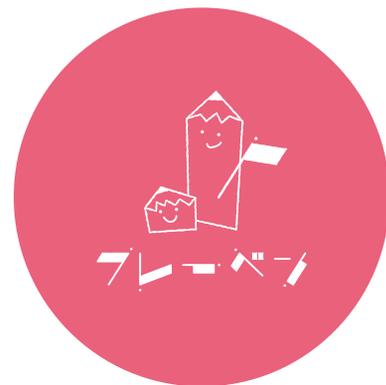


自分の意思を周囲に伝える力



協調性

フレーベン 児童養護施設児童への個別学習支援



令和5年度は2名の中学3年生と学習支援ボランティアをお繋ぎすることができ、46回の支援を行いました。学習支援ボランティアが指導できる科目と子どもが指導を希望する科目をマッチングし、効果的な学習サポートを行うことができ、2人とも無事高校進学を果たすことができました。今後も支援対象児童を広げるために、ひきつづき学習支援ボランティアの確保に努めながら、研修プログラム等も整備してまいります。

ノートムービーズ 教員撮影による学習動画配信



インターネット上で教員免許所有者が撮影した学習動画サイトをひきつづき公開し、令和5年度は32,403回の視聴回数がありました。今後も子どもがつまづきやすい箇所を中心に新しい動画を撮影し、順次公開していくことで、子どもたちの自主学習サポートに取り組んでまいります。

New Division

2024年度より新規受託事業開始 「明和町子ども第三の居場所」運営

群馬県邑楽郡明和町からの事業委託を受け、2024年4月から子ども第三の居場所（通称：こどものいえメイプル）の運営を開始します。子ども第三の居場所とは、日本財団が様々な困難な状況にある子供たちを支援することを目的に2016年から開始した事業です。こどものいえメイプルでは、B&G財団、



明和町との連携を通して明和町内のこども園、小・中学生、高校生を対象に生活習慣支援や学習支援、食事支援等を行っています。安心して過ごせる居場所で自己肯定感、人や社会と関わる力、生活習慣、学習習慣など、将来の自立に向けて生き抜く力を育みます。

2023年度 ご支援のお礼

多様な機関と連携して、支援の枠組みを実現



NPO 法人サービスグラント様 よりプロボノ支援をいただきました。

当法人の職員やボランティア等、立場や関係性に関わらず、子どもへの支援品質を担保するために、「クレド」と呼ばれる行動指針の策定サポートに取り組んでいただきました。

寄贈内容

子ども、保護者、スタッフへのヒアリングを通じて**クレド**を策定いただきました。



SERVICE GRANT
特定非営利活動法人 サービスグラント

NPO 法人 MCF 様 より助成金をいただきました。

ひとり親家庭に属する不登校児童生徒を対象とした無料学習支援を実施するために助成金をいただきました。参加した児童生徒の自己肯定感や学習習慣の向上に寄与することができました。

助成内容

教材費・運営費
ボランティア交通費

計 **100** 万円



MCF
NPO法人 モバイル・コミュニケーション・ファンド
Mobile Communication Fund

赤い羽根共同募金 様 より助成金をいただきました。

新設したフリースクール大田校のプログラム充実とフリースクール動画を作成するために助成金をいただきました。おかげさまでフリースクール大田校を利用する児童生徒も増え、素敵な動画も完成しました。

寄贈内容

講師謝金・教材費
ボランティア交通費

計 **100** 万円

制作したフリースクール紹介動画はこちら



https://youtu.be/W1hX29_GIR8?si=05xFZksGpcmh48y

じぶんの町を良くするしくみ。

赤い羽根共同募金



あなたも

TASA EDUCATION MEMBER

ターサの仲間になろう！

「一緒に社会創りませんか？」

私たちターサ・エデュケーションでは、一緒に活動する仲間を募集しています！

総勢 200 名以上の仲間が、私たちの団体に関わっています。多様な関わり方があるからこそ、自らを選んで活動できることが魅力です。ぜひ、あなたの力を子どもたちのために貸してください！



寄付を通じて支援

DONATION Member

都度寄付や月額寄付を受け付けております。寄付決済プラットフォームよりお申込みください。寄付者限定特典も準備しております。

<https://syncable.biz/associate/tasa-education/donate>

当法人では、決済プラットフォームシンカブルを通じて寄付を受け付けております。



Syncable



クレジットカード対応ブランド



寄付者 特典

- ◆実績報告書を送付
- ◆実績報告会無料招待
- ◆ボランティア情報を優先案内
- ◆オリジナルステッカーを送付

VOLUNTEER Member

ボランティアで支援



当法人が運営する活動にて随時ボランティアを募集しています。空いた時間に楽しく！子供と関わってみませんか？ボランティアプラットフォーム「アクティボ」より、確認の上お申込みください。

募集ページ：

<https://activo.jp/users/75342>



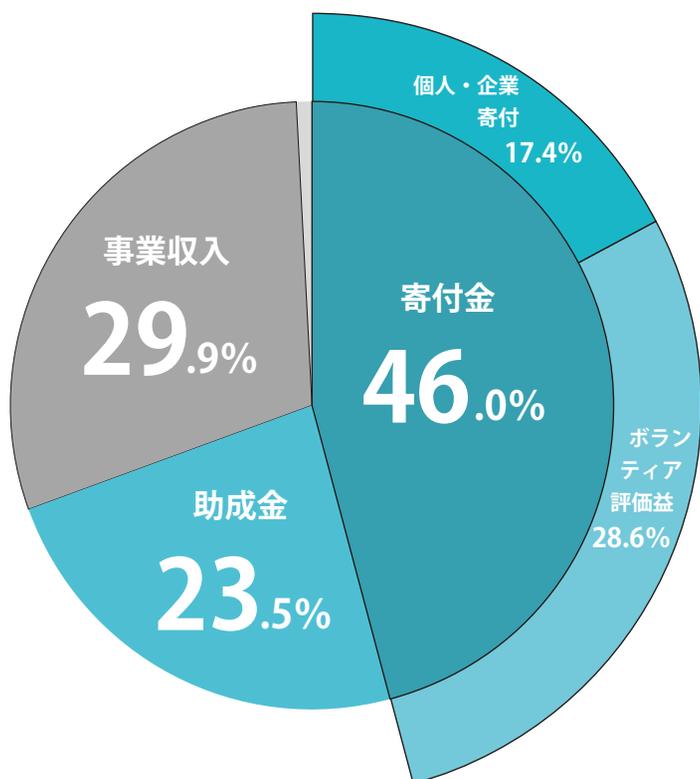
フォトギャラリー

紹介しきれなかった
活動の様子を
ご紹介します。



2023 年度 会計報告

2023 年度は個人や企業からの寄付やいくつかの助成金をいただけたため、自主事業の充実や組織基盤整備に取り組むことができました。今後より支援を広げていくためには、支援人材の確保と育成が必要不可欠です。そのためには、まだまだ資金が必要です。皆様のひきつづきのご支援ご協力をよろしくお願いいたします。



収入

寄付金 12,248,469円 46.0%

個人・企業寄付 17.4%
ボランティア評価益 28.6%

助成金 6,270,925円 23.5%

モバイルコミュニケーションファンド、
赤い羽根、檜の芽会、太田市、群馬県など

事業収入 7,970,094円 29.9%

フリースクール事業、
ひとり親家庭学習支援事業など

その他収入 148,679円 0.6%

会費、講演会収入など

収入合計 26,638,167円

支出

人件費 12,248,469円 52.3%

ボランティア受入評価費用 31.5%
常勤・非常勤スタッフ給与 20.8%

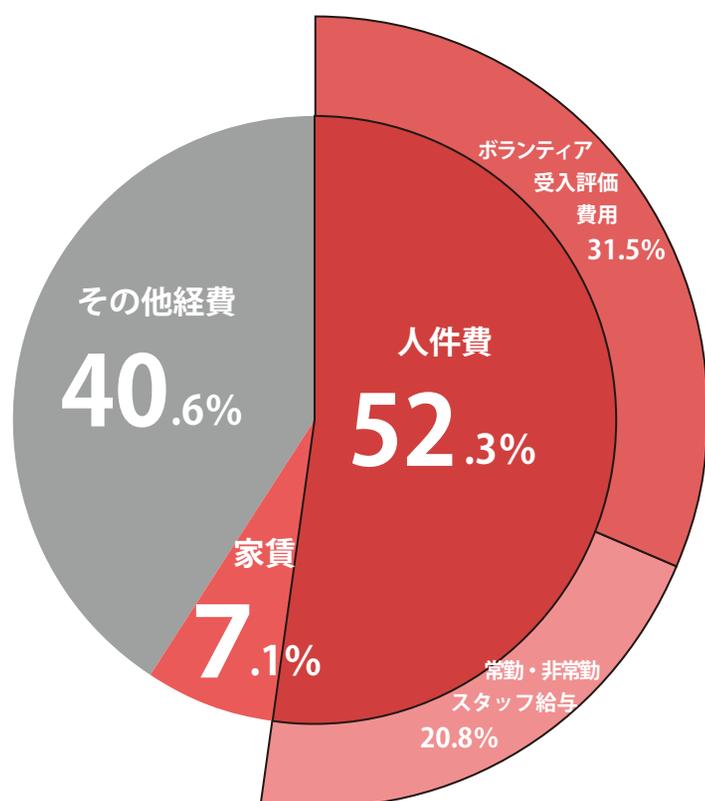
地代家賃 1,748,826円 7.1%

拠点を借りるための費用

その他経費 7,970,094円 29.9%

消耗品・水道光熱費・教材費・ボランティア
交通費等

支出合計 24,476,148円



※ボランティア受入評価益、評価費用とはボランティアによる労働力を金額評価することで、NPO 法人の真の活動規模を評価しようとする項目

特定非営利活動法人ターサ・エデュケーション

〒379-2117 群馬県前橋市二之宮町1291番地6

TEL 027-226-5243 Mail info@tasa-education.com

WebSite <https://tasa-education.com>